

第3回 文化の森 シネマ館 (9月25日)

“ラストゲーム” 上映

～ 最後の早慶戦 ～

禁じられた野球に、愛と情熱をかけた人々の感動実話！！



日 時 平成21年 **9月25日(金)**

開 場 午後6時、

開 演 午後6時30分

神山征二郎監督舞台挨拶後上映

場 所 大田文化の森 ホール

入 場 料 無 料

定 員 250人(申込者多数の場合は抽選)

申込方法 往復はがきに ①住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話番号 ④申込人数
(4人まで申込可)を記入の上、下記宛ご郵送ください

〒143-0024 大田区中央2-10-1 大田文化の森運営協議会

シネマ館「ラストゲーム」係

申込締切 9月14(月) 必着

あの日、僕たちの願いが、
奇跡を生んだ。

**65年の時を経て、今も語り継がれる伝説のゲーム
そこには選手たちの熱き想いと、大人たちの切なる願いがあった――**

青い空の下、グラウンドで無心に白球を追いかける若者たち。1943年、太平洋戦争が彼らから青春の日々を奪おうとしていた。「野球は敵国アメリカのスポーツだ」と六大学野球が廃止、さらに学生に対する徴兵の猶予が停止、彼らはバットを捨て、銃をとらねばならないのだ。

しかし、早稲田大学野球部顧問の飛田穂洲は、出陣の日まで学生たちと野球を続けると誓う。野手の戸田順治は、厳格な父から「この非常時に」となじられたが、志願した兄の「戦争は俺に任せて、お前は野球をやれ」という言葉を胸に練習に励む。「試合がしたい」選手たちの願いは、ただそれだけだった。

ある日、慶應義塾塾長の小泉信三が、飛田に「早慶戦」を申し込む。二度と帰れないかもしれない若者たちに生きた証を残してやりたい――小泉の切なる願いを飛田も喜んで受けとめるが、早稲田大学総長は頑として拒絶する。飛田の強行突破で、遂に幕を開ける早慶戦。それは、別れであると同時に、明日への希望に満ちたゲームだった……。



**日本映画界の重鎮が、期待の若手と演技派を起用し、
感動の実話を映画化!**

時代は違っても野球、恋、友情と、今の我々と全く変わらない若者たち。野球をこよなく愛す戸田には、渡辺大、戸田の親友、黒川には、注目の若手ホープ、柄本佑。その他の野球部員役に甲子園出場経験などもある実力派が顔を並べ、迫真の試合シーンとなった。学生野球の父といわれる飛田には柄本明、教育者の誉れ高き塾長小泉信三には石坂浩二が扮し、困難な時代に信念を貫こうとする男たちを熱演した。また、早稲田大学総長には藤田まこと、順治の父に山本圭、母に富司純子と、演技派の大ベテランたちが脇を固めた。監督は、『ハチ公物語』『大河の一滴』など、ヒューマニズム溢れる作品で知られる神山征二郎。そして主題歌には鬼束ちひろが、一瞬を精一杯生きた者たちへの鎮魂歌というべき楽曲「蛍」を提供。

夢をあきらめない若者たちの、感動の実話が今、甦ります。

監督:神山征二郎「大河の一滴」「ハチ公物語」 主題歌:「蛍」鬼束ちひろ(ユニバーサルシグマ)
渡辺大 柄本佑 和田光司 脇崎智史 片山享 中村俊太 / 柄本明
宮川一朗太 三波豊和 原田佳奈 山本圭 / 藤田まこと / 富司純子 石坂浩二
製作:李 真平 企画:藤田 石井 勇 丹羽健一 黒多望 堀明 プロデューサー:黒山和由 企画:黒島真夫 プロデューサー:宮岡信明
ラインプロデューサー:松田康史 脚本:古田 栄・小泉(角川文庫刊) 撮影:阪本善尚(U.S.C) 照明:大久保武 美術:藤本 章 録音:武 道 編集:緒田智子
音楽:和田 薫 ファイナンス:アレクシメント(シャトル・デジタル・コンテンツ) 権利:製作:原田SIF 企画・制作・配給:シネカノン cine@uanonon -FLime
©2008「ラストゲーム 最後の早慶戦」制作委員会(シネカノン/東急レクリエーション/シネマイニング/エヌエム/ADEX 日本経済広告社/Yahoo! JAPAN)
特別選定:文部科学省(少年向き、青年向き、成人向き、家庭向き) 推薦:青少年映画審議会(社)日本PTA全国協議会
(財)日本野球連盟 (財)全日本軟式野球連盟 (社)日本野球機構 (社)全国野球振興会
2008年/1:1.85/SRD/1時間36分 www.lastgame-movie.jp



大田文化の森運営協議会

Tel 03-3772-0770 / Fax03-3772-0704

URL : <http://www.ota-bunkanomori.jp>